

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 2008年新年賀詞交換会1
- 新春雑感2
- 理事会・委員長会議報告・海外ニュース6
- 雑誌の歴史 ジャーナル・ビジネスのあれこれ (3) ...7

2008年新年賀詞交換会

ブレスクラブのJAIP新年賀詞交換会も理事長グレスシャムさんのおかげで恒例となっています。

今年も1月10日(木)に51社144名の顔なじみのメンバーが集まりました。

定刻午後6時過ぎに鶴竜次氏(東亜ブック)の司会でスタートです。文化厚生委員長の鶴三郎氏(東亜ブック)のオープニング挨拶、理事長マークグレスシャム氏(UPS)のユーモアを交えた日本語のスピーチ。

乾杯は副理事長中林三十三氏(日本出版貿易)からこれからの協会についての提言と共に力強くご発声いただきました。

和気あいあいのメンバー同士の楽しい会話、美味しい料理とバラエティーに富んだ飲み物、岩瀬さんの心地よいピアノ演奏、すべてがとけあった2時間のパーティーでした。最後は理事山川隆司氏(ユサコ)にメのご挨拶をいただきフィナーレとなりました。昨年と

比べて今年のパーティーは海外のメンバーが多かったおかげで大いに盛り上がった様です。

鬼が笑うかもしれませんが、来年のJAIP新年賀詞交換会は2009年1月9日(金)に決まりました。

(ST記)



新春雑感

副理事長：中林三十三（日本出版貿易株式会社）

連 携

平成20年、業界新年のスタートでもある賀詞交換会が例年通り盛大に行われた事は大変心強いものを感じる。乾杯の挨拶でも申し上げた通り、十二支の干支頭でもある子午は、十二支中でも割合縁起のよい年回りのように聞いているものの、それとは裏腹に新年冒頭の日本の株式市場は市場始まって以来の暴落になり、今年の日本景気そのものに暗雲が垂れ込めた感じの株式相場の発会式であったが、案に違わずアメリカに於けるサブプライムローンによる欧米金融機関20社の合計損失は10兆円を越すとも言われている。アメリカ経済は極めて先行き不透明な状況である。アメリカの経済の成長が停滞する事は、すなわち世界経済に及ぼす影響が少なくない事は誰しもご存知である。日本も失われた10年の言葉通りのバブル崩壊の傷跡からようやく立ち直った矢先の不安は免れない。アメリカ経済の動向によってはまた不況が心配される。

これらの問題が私共業界にどのようなインパクトを与えるかは企業それぞれによって異なるでしょうが、少なくとも変化する社会情勢の中で企業の合理化は徹底して行わねばならない。それだけでなく、企業活動においてアマゾンの日本上陸以来大きな変化の中で動いている事は確かである。また、業界にとっても大切な得意先でもある大学も、少子化の将来だけの問題ではなく、どんな大学でも孤高を保っているという社会情勢でなく、大学は連携の時代に入ったとの話も聞く。話は変わるが、“連携”という言葉の意味は、我々業界にとっても今年のキーワードになればよいと思う。少なくとも同業間ではお互いに合理化するべきところは合理化をはかり、会員相互の連携を密にし、協会の活性化に役立てれば年会費の価値観も納得するのではないだろうか。夫婦親子で経営している株式会社もあるでしょうが、それらを中心とした業界団体であっても、少なくとも欧米文化の出版物を取り扱う日本洋書協会としてももっとも変化を先取りした業界団体であるよう、結束を固めて会員の増強を図って欲しいものである。

理事：藤村裕二（丸善株式会社）

古来、子午は「繁栄の年」と言われていますが、過去においては大きな政変や大事件があった年でもあります。今年はアメリカの大統領選挙や北京オリンピックがある一方、世界的にはサブプライム問題や原油価格の高騰もあり、日本では政治の混乱や「偽装」問題が後を絶たず、また環境問題もなかなか先行きが見えず、世の中全体が混沌とした不安感がたよう雰囲気にあるようにも見えます。

こうした状況の中で出版界を振り返って見ますと、海外の大手出版社の大型M&Aは一段落したものの、学術出版、特にSTM系出版での電子化の流れは留まる事を知らず、市場においても主要顧客が電子ジャーナルは言うに及ばず、eBookの導入も拡大しつつあり、まさに電子化の大波が押し寄せているという状況です。

図書館予算の削減や洋書の落ち込み、外国雑誌の値上げという厳しい状況は既に何年も続いていて、我々業者の利益がどんどん小さくなっていますが、電子化が進み、業者の役割や存在意義がますます厳格に問われるような状況となり、世の中の状況と同じく更に先行きが見え難くなっています。

「繁栄の年」にあやかって大きな利益が期待できるような新しい商品やビジネスチャンスも期待しても儚い初夢の中のことだけかも知れません。やはり着実な仕事をこなすことが基本だと思いますが、会員各社が協力し合ってお客様に出版社にも存在感を示せるような年にしたいものです。

理事：新田満夫（株式会社雄松堂書店）

2008年はどうなる？ 色々な立場の人たちや機関がそれぞれ展望していますが、全体的な流れは“益々判りにくい時代になって来た”という言葉に要約されるようです。

昨年末私が企画し成功だったと認められた香港での“国際古書展”で感じたグローバルな流れをどう捉えたら良いのでしょうか。

私達洋書輸入を生業とする業者が戦後欧米から書物を輸入して日本の市場に適應できるように付加価値をつけて全く新しい市場を創造してきた事実は自他とも

に認めるところです。このことは私達は胸を張って誇るべきものと確信しています。しかしここ数年、情報発信メディアとしての出版物の形態や、アマゾンコムの出現によっても判るように流通そのものも一気に変化してきました、単に欧米の版元から輸入して販売し手数料を得る形式の業態はすでに過去のものとして理解せねばならない時代に入ってきています。

日本の学術文化を支えてきた私達はこれからも自信を持って自らが情報の発信者となり、創造者となってグローバルな時代の中で生き抜いていかねばならないでしょう。

結論として考えれば最終ユーザーにとって欠くことのできない業者として存在し続けなければなりません。

大型の書籍小売店も含めて書籍の小売業界は今未曾有の不況感にとらわれています。当然版元もその影響を受けることは必至です。研究図書館の予算配分も必ずしも書籍出版業界にとって有利に展開してはいないようですが私は、良い本を作ったり輸入したり、それを一生懸命売ることに努力すれば成果は上ると信じています。

この業界に身をおくことに誇りと自信を持って新しい年を迎えたいと思っています。

理事：山川隆司（ユサコ株式会社）

2008年の年明け、一家で伊勢神宮を参拝しました。

伊勢神宮の森閑とした大自然に溶け込んだ清楚かつ厳かな雰囲気は、普段都会の喧騒の中で暮らしている私には格段の清々しさを感じた次第です。また、日頃の業務を通じて欧米の文化や風俗に慣れ親しんでいる私をはじめとする全ての日本人、或いは世界の人々にとっても同様な感銘を与えてくれるものと思いました。

さて、視点を同業界に向けてみます。今年からは知的財産権、特に著作権の問題に積極的に取り組んでいくことを提唱したいと思います。この問題は私達JAIPのメンバーにとっても、また私達の業界を取り巻く全世界的な課題でもあります。この問題の解決には気の遠くなるような時間とエネルギーを要します。著作物、著作権者の権利を保護することによって当業界の発展、ひいては日本、世界の文化の発展に寄与できればと思っています。

理事：鶴 三郎（株式会社東亜ブック）

2007年は沢山の人達と出逢いがありました。新年賀詞交換会、サマーパーティー、関西パーティー、理事・委員長の忘年会、女性経営者の会での食事会、72会ゴルフ、麻雀大会、ボーリング大会等々。文化厚生委員会の仕事は会員皆様の出会いの場を提供して、楽しく過ごして頂くことと思っています。

2008年はJAIPの若い会員の方達が参加しやすいようなテーマ毎のミーティングを企画して出会いの場をさらに増やしていきたいと計画しています。

会員同士の会話を通じて心に残る何かを見付けられる雰囲気作りのお手伝いが出来ればと思っています。

理事：松本真知也（日本洋書販売株式会社）

私にとっても先輩である尾内昌弘さんが洋書協会ホームページに「ジャーナルビジネスあれこれ」という文章を寄稿されています。大きな時間軸の中で日本におけるジャーナル（雑誌）流通販売の変遷がわかりやすくまとめられておりとても勉強になりました。また、客観的なその記述の行間からは海外文化の普及に携わった方々の営々たる努力もひしひしと伝わってきました。最後の部分で「物流を伴わないオンラインジャーナルの普及」やコンテンツ流通の仕組自体の変容により、現在の業者は「新しい情報サービス業者に変貌」する、という言葉があります。出版流通にとっても作り手と受け手の関係性がすでに大きく変わり、情報流通の担い手としての雑誌もその質と形を変え、より広く早く読者に届くという便利さに慣れつつあります。

一方、いくつかの書店の販売現場を見て改めて感じることがあります。それは、実際の「モノ」を集め、ディスプレイし、不特定多数の来客者に向けて開かれた場を作り続ける営みは、読者の便利さという点から必要不可欠だということです。探している本以外のもの、予期していないものに出会える場としての書店。その面白さを求める人々と、それぞれの個性を磨きながらその場を作り続ける書店、言葉を介さないコミュニケーションがそこにはあります。

年賀状の古紙含有率問題でもクローズアップされた資源活用問題、原油の高騰と、実際の「モノ」である出版物を海外から調達する仕事にとって、厳しい環境の年明けとなりました。紙であり続ける本や雑誌とは何か、実際にそれらを手に取れる場をどのようにして活性化するか、本質的な問いかけに対する答えを日々

の活動の中で出してゆきたいと思います。

理事：小松崎敬子（株式会社絵本の家）

今年は年頭から二出版社の民事再生法申請のニュースで驚きました。いずれも時流に乗った企画力のある会社で、少し前までは「景気がよさそうね」などと言っていたのでもう少し踏ん張る余力があるのではないかと見ていました。数年前から言われている出版物全般の売上の落ち込みは深刻なようです。洋書はもっと大変!と言いながら年を越せた私たちは「結構すごいかな」などなど社内では言い合っています。今年は地味に堅実にやっていきたいと心しております。

洋書協会の推薦理事を仰せつかって三年になります。理事会には真面目に出ておりますが、なかなかお役に立てるようなことができません。唯一、「女性経営者の会」はメンバーの方の積極的なご参加をいただいて、続けることができました。男性理事の方をお一人ずつお誘いして食事をしながら情報交換、たまには愚痴をこぼしたりしながら元気を交換しています。2月には山川理事、5月には新田理事にお声をかけます。ダイレクトリーの順番できましたので、その次は理事以外の方にもお声をかけます。どうぞその時は尻込みなさらないでご参加下さいませ。男性とまた違う観点からおもしろい意見もきかれるかもしれませんから。「一人ではどうも」と言われる方には、グレシャム理事長は毎回時間の許す限り参加してくださいますから大丈夫、とお教えしておきます！

理事：ポール・ライリー

（オックスフォード大学出版局株式会社）

明けましておめでとうございます。

2008年が皆様にとって良い年でありますように。

オックスフォード大学出版局は昨年日本洋書協会の理事に就任させていただきました。

このたび会員の皆様に新年のメッセージを書かせていただくのは初めてなので、アイデアを得るために日本洋書協会のウェブサイトを見てみることにしました。そこには、「我々の目標と目的は日本で図書館や個人のお客さんに洋書の販売促進を図ることである。」と書かれていました。確かにこれには議論の余地がないように思われます。しかし、劇的な生徒数の減少、その結果として起こる図書館の予算削減と書店の売上げ低下を考慮すると、これが2008年度における私達

協会の使命であり続けてよいのでしょうか？ 会員の皆様のご意見を率直にお聞かせ願えれば幸いです。

この難しい質問を皆様に投げ掛けることに至った背景をお知らせするためにも、この協会の中で出版のみを行う出版社として、海外の出版社から見た日本に対する現在の見解を共有させていただきたいと思います。その上で、日本洋書協会がその役割と使命を考え直す必要があるか否かを皆様全員に検討いただければ幸甚です。

私は出張先の英国オックスフォードからこれを書きました。そこでは英国や米国を拠点に出版、販売、マーケティングにおける様々な分野で仕事をする同僚と検討/計画会議を行いました。日本の書籍市場の現状と将来に関する海外の認識に焦点をあてて、初日の会議について詳述したいと思います。

最近起こった二件の出来事、NOVAの破綻と日本の人口の減少は、近頃地元の新聞でも話題にされており、同僚との会話ではこの話題でもちきりとなりました。私は、「事態は序々に改善するであろうが、NOVAの倒産が語学学校の市場を落ち込ませ、学習者数の減少が二次的三次的な英語学習は熱心な生徒を除く多くの学習者にとっては重要ではなくなりつつある。」という事態を説明しました。

同僚の一人が英国の新聞「ガーディアン」の切抜き記事を見せてくれました。オックスフォード大学近代日本学の教授、ロジャー・グッドマン氏による記事で「日本にある744の大学のうち40%近くが10年以内に、倒産、合併あるいは廃校になる。」と書かれていました。私は「それは悲観的な見解であるが、概ね正しい。」と答えました。（その時、部屋を見回すとこれまで主な海外市場の一つであった日本市場がさらに悪化してゆくことを懸念した英語教材部と学術出版部両方の参加者から、がやがやと不安の声が漏れていました。）

会議が継続する中、日本の状況を危惧した同僚が経済状況や数年前から主なタイトルであった「書籍の単価」が劇的に下落した理由について聞いてきました。「日本の経済状況は弱体化したままで、弱い円と国内のデフレ圧力で移転価格が下がっており、短期間に大幅に改善する見込みはなさそうである。アマゾンが日本市場へ参入したり、安価で書籍を調達する手段として多くの選択肢が出てきたことにより、出版物の値上げをすることは難しくなり、競合するためにドル価格

に近い価格を付けている。」と話しました。

アマゾンのオンライン販売、「Kindle」の市場への出現について、さらに具体的な質問を受けたので、「Kindleは未だ市場に出ていないがかなり新聞記事に取り上げられている。アマゾンでは価格においてのみならず、さらに重要なことには販売ネットワークを向上させ、より競争力を強化させることによって、日本の出版業に絶大な影響を与え続けている。」と答えました。これから「和書」と「洋書」の相違について、何故日本のバーコードと海外のバーコードは異なるのか、何故洋書は出版業で別扱いされ、常に論理的な販売方法では通用せず、特別な手段が必要なのであろうかといった長い議論が始まりました。

午前中続いた議論は勿論もっと詳細なもので、この議題の全てに関して深く話し合われました。しかし、初日の朝会議が終わる頃には、私の同僚は日本における書籍業の将来について明らかに心配している様子で、何か良いニュースは無いのか、成長への潜在的な機会はどこにあるのかといった質問をしました。私は、「幸いにも日本では教育は今も重要視されており、これからもその傾向は変わらないだろう。」と答えました。子供向けの英語教材はこれからも伸びてゆくことに変わりなく、広範囲にわたる教育課程改革は、2011年から小学校の教育課程への正式導入の道を開いてくれることでしょう。

新しいテクノロジーを積極的に受け入れようとする日本人人口の増加傾向は、様々な充実したコンテンツ、特に情報サイトを含む携帯端末の急成長市場を作り出

しました。同時に社会人教育や高等教育において「混合学習 (blended learning)」がより人気を増し、マルチメディアが付属された印刷出版物の人気も上昇しています。

ここまで読まれて、「これは私に何の関係があるのだろう。」と自問される方もいらっしゃるかも知れません。ある人は「関係ない。」と思うでしょう。しかし、外資系出版社の海外事務所は、日本の市場が図書館や個人を対象にした従来の伝統的な印刷出版物の分野では減少傾向にあり収益性が低下している一方、「新しいメディア」とそのコンテンツの従来と異なる販売方法に絶好の機会を見出しています。投資について触れますと、従来自動的に印刷出版物に充てられていた資金は、現在ではもっと広い意味でそのコンテンツの使用から最大の投資収益を得られる資金と考えられるようになりました。私達の定められた使命において重要な言葉は、「出版物」であり、またそれがどのように定義されるかでしょう。日本はコンテンツを有する外資系出版社から見ると依然収益性の高い市場です。書籍業（例として印刷出版物の販売）は、もはや「確実なもの」ではなく、そのことを私達会員は留意すべきでしょう。

日本市場はこれまで発展をしてきました。私はここでは基本的に何も新しいことに触れて書きませんでした。2008年を迎え、「私達組織にとって適切な使命とは何だろうか。」という疑問を呈させていただきました。

訂 正

会報新年号に掲載されました2008年主要国際書籍展一覧中、一部変更となっておりますので訂正致します。

① Seoul International Book Fair

開催期日が5/13～5/18になっていますが、正しくは5/14～5/18です。

② Beijing International Book Fair

開催期日が9/3～9/7になっていますが、9/1～9/4に変更となりました。また開催地もBeijingではなく近隣の都市 Tianjin (天津) に変更となりました。

.....

2007年12月号の72会ゴルフコンペの記事中、金原優氏 (医学書院) のお名前が間違えておりました。お詫びして訂正いたします。

理事会

2008年1月29日（火）

委員会報告

事務局から委員長会議の報告があった。（内容別掲）

理事長から

来期活動方針討議

各理事からの意見を討議した結果、藤村理事の提案に沿って肉付けをおこない、次回の理事会でまとめる事とした。

その他

（株）マクミランランゲージハウス入会の件は満場一致で承認された。

委員長会議

2008年1月17日（木）

委員会報告

総務委員会

マクミランランゲージハウスから入会の申し込みがあった。その他にも入会の可能性が有るところには引き続きオファーする。

下四半期終了時点での予算の状況は予算通りに推移している。

会報・広報委員会

会報用に行事の年間スケジュールが必要。文化厚生委員長了解。

事業委員会

三省堂で行ったセールはその後大宮、大阪と継続していった。次の開催に向けて委員会を招集する。

ホームページ委員会

すでに事務局から全会員に連絡したが、協会ホームページのアドレスが変更になった。

これは独自のサーバでHPを運営するため新ドメインを取得したため。

文化厚生委員会

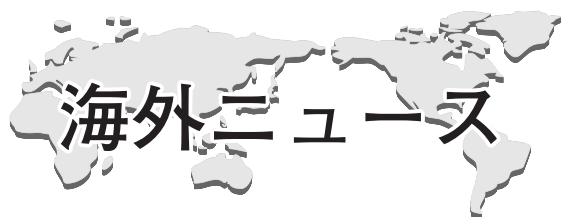
今回の新年賀詞交歓会は例年になく盛り上がりを見せた。今後は他にも会員同士が集まれる「場」を提供するよう検討する。

今後の主なスケジュール

- ・ 5月23日（金）総会及び懇親会
- ・ 7月18日（金）サマーパーティー
- ・ 12月5日（金）理事・委員長忘年会
- ・ 2009年1月9日（金）新年賀詞交歓会

その他

書協から案内のあったIPA ソウル大会への参加はトッパントラベルにツアーの企画を依頼し、公募する。



◆◆ 中国の厳しい出版事情

ここ数ヶ月で紙の価格が高騰したため、中国の出版社は紙の調達に奔走して書籍の価格を抑える努力をしている。中国の書籍は他の国に比べて安く、これが中国の出版産業の発展を支えてきたと、専門家は指摘する。書籍の価格が上昇することで、出版社の動きが低品質の書籍に流れることが懸念される。

ヨーロッパおよび北米では、2千部から3千部印刷することで学術書の出版は採算が取れているが、中国

の場合、その2倍以上印刷しないと採算が取れない状況にある。

コスト上昇への対処として、出版社は採算の取れない書籍の刊行を取りやめている。出版社にとって利益が見込めるか否かが、刊行するかどうかの目安になっているのだ。いくつかの出版社は、より利益の大きい一般書の出版に力を入れ、文学作品や学術書の出版から（それが質の高い内容でも）手を引く傾向にある。

諸外国に比べれば、それほど高い水準ではないにしても、既に書籍の価格は若干高くなっている。大多数の読者は価格の高騰を受け入れることはできないだろう。

印刷コストの上昇は、出版社による企業努力では対処できないほどで、政府や社会からの何らかの援助が求められている。

China View JAN/28/2008 <http://www.chinaview.cn>

（ニュース提供：丸善洋書部）

洋書の歴史 ジャーナル・ビジネスのあれこれ (3)

尾内 昌弘

物流問題

外国雑誌が出版社から購読者へ直送されるため、郵送上の事故、出版社側でのエンター漏れ、誤入力などの理由による欠号、不着などの問題は業者にとってもっとも頭を悩ますものである。各社においても、それぞれの対策を講じていたが、協会としても何らかの方法を考えようと、昭和42年(1957)に「雑誌欠号委員会」を発足させ、郵政省郵務局と対策を検討したとの記録が協会報に残っている。昭和43年(1958)7月から郵便番号制が実施されたこともあり、ローマ字表示の方法を統一しようとの動きもあった。しかしながらこの直送による方法で生じる問題は今日に至るも抜本的な解決策は見出せない。

昭和47年(1972)に英国政府は書籍、雑誌の輸出振興を目的として、国策で当時国営であった British Air (BA) を使った ASP: Accelerated Surface Post というシステムを開発した。これは、通常の Airmail よりは費用が安く、若干日数はかかるが船便よりは数段早いというシステムである。また、翌年にはオランダの郵政庁が ASP とほぼ同じようなシステムである SAL: Surface Mail Air Lifted を開発し、エルゼビアがこのシステムの利用を開始した。

英国およびオランダが開発したシステムにより、ヨーロッパの雑誌の入荷が早くなるので、アメリカの雑誌も早く入手したいという顧客の要望に応えるため、また、欠号対策として、大手の業者は現地(米国)での受け入れ、エアカーゴによる取り寄せ、国内での再発送というシステムを昭和43年(1973)ごろに開発した。事故が起きたときには大きなクレームとなり、またその解決に多大な損失が生じる高額誌であり、重量もあった Chemical Abstracts や Biological Abstracts などをそのシステムに乗せた。

1980年代の後半になるとオランダの Swets 社は自社が開発した、Consolidation System (一括納入システム) を顧客に提供し始めた。購読者に代わり自社で集荷し、購読者別に仕分けし、まとめて購読者に送付するシステムは、欠号対策として、また顧客側の省力化に役立つものであると顧客にアピールした。このシステムは他の外国 Agent も採用し始めた。そこで日本の業者もこれに対抗するため、エアカーゴによる取り寄せシステムの経験を生かし、それぞれが独自に開発した一括納入システムを平成3年(1991)から次々にスタートした。

日本の業者が、一括納入システムを始めると、図書館関係の雑誌に「どこのシステムによる納品が早い」「納品率はどこが高いか」などという各社を比較する論文が多く掲載されるようになった。しかし、このシステムによる図書館側の省力化効果または経済効果についての論文は殆ど目にする事はなかった。

Chemical Abstracts Serviceについて

世界最大の化学文献の二次資料である、Chemical Abstracts (American Chemical Society 発行) は STM 分野で最大の商品であり、各社の主力商品であったが、その取り扱いについては、過去に大きな問題が2回あった。

最初は、昭和32年度(1957)に送本が停止されたことである。この問題は同誌の購読料の仕組みに深くかかわっていた。すなわち1956年度の年間購読料は、個人会員20ドル、大学等教育機関80ドル、その他の団体が350ドルと三通りの価格となっていた。

1955年の購読料はその他の団体が62.70ドルであったものが1956年は一挙に5.6倍に大幅値上げされたのである。それにもかかわらず、個人会員購読料は20ドルにとどまりその差があまりにも大きすぎたのである。個人会員の研究の便宜のために設けられた制度ではあるが、このような仕組みは日本にはなかったのである。値上がりした350ドルは当時の一般的カタログ価格は147,000円であり、他の雑誌に比較すると極端な高価格であった。(その頃の大学卒業者の初任給は、13,000円程度であった) このようなことから、団体、会社に属する個人が、個人会員となり、その名義を使い20ドルで購入し、皆がこれを利用するという方法へ、なだれ現象を起こしたのである。ACSによれば米国の場合、同年度の新規の個人会員の増加は、前年度の10%以下であるのに日本の場合は452%と激増し、新旧個人会員の購読は702部になった。一方1955年には928部あった団体購入のうち、814部が解約され、114部しか残っていないとのことであった。これではACSの経営が成り立たないので、やむを得ず日本の個人会員への送本を一時停止する措置を取ったという次第であった。問題の解決のために、日本化学会が会員に、新規個人会員は購読を辞退し団体購読に切り替えるようにとの要望書を送付したり、個人購読者は個人の利用に限るという誓約書をACSに出させるなど、いくつかの方策がとられ何とかその年は解決した。

二つ目の問題は、その取り扱いに関してであった。昭和52年(1977)10月に化学情報協議会(JAICI)よりアメリカ化学会(ACS)と「JAICIが日本の化学情報を提供し、ACSの一部門であるCASの刊行物を販売する権利を持つ」という協定を結んだとの報告が協会にあった。Chemical Abstractsの購読数は減ってきたとはいえ、販売額は総額で十億円ちかい商品であり、その売り上げがなくなることは業者にとっては大きな痛手であることから、協会代表がJAICIと再三協議を行い、昭和53年(1978)春に洋書輸入協会の会員会社をサブディラーに指定する覚書の交換をした。しかしJAICIより昭和59年(1984)秋に、協会との覚書を失効し、翌年よりCASの製品はJAICIがすべて扱うとの宣告があり、ついに業者はCASの製品を扱えなくなってしまったのである。



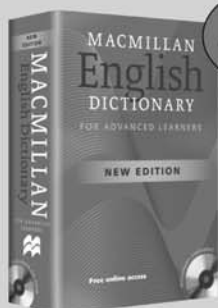
MACMILLAN

マクミラン 英英辞典シリーズ

待望の改訂第2版 好評発売中!

- 英英辞典のバイブルとなる1冊 -

マクミラン英英辞典

NEW
EditionISBN: 978-1-4050-2526-3
CD-ROM付 ¥3,990 (税込)

CD-ROMでは、辞書の全情報の他
検索機能がさらに充実。練習問題も
もちろん豊富。
アメリカ英語とイギリス英語両方の
発音を搭載!

最新の2億語のコーパスに基づいた
充実した内容と、分かりやすい
コロケーションの解説。

- 定義には2500語のみを使用し、明解で詳細な解説が魅力的です。
- ネイティブの日常英会話に絶対必要な最重要単語の90% (約7500語) を赤字で表示。

www.macmillandictionaries.com

- 専用ウェブサイトで、オンライン辞書の使用の他、最新の情報や楽しいゲーム、役立つリソース等をご利用できます。

[Get it Right]では、取り上げた単語
の間違いやすい用法を指摘し、その
修正方法を解説。混同しやすい単語の
細かな違いについても説明。

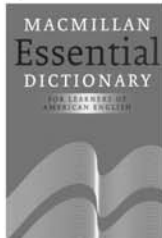
3 in 1

スリー・イン・ワン

辞書・CD-ROM・オンライン辞書

3種類のコンテンツを搭載!

忙しい現代人のライフスタイルに
合わせて、いつでも、どこでも
使用できます。

マクミラン
エッセンシャル英英辞典

初級～中級者
向けに厳選され
た内容。アメリカ
英語版、イギリス
英語版それぞれ
辞書のみ、ある
いはCD-ROM付
が選択可能。

ISBN: 978-4-89585-963-9 ¥3,045 (税込)
(イギリス英語版CD-ROM付)マクミラン
教科基本語英英辞典英米の中学・高校生が学ぶ
20科目の必須語6000

地理・物理・化学
・音楽・医学・音
楽・コンピュータ
等20科目の必須
語彙6000語を取
録! 専門用語も分
かり易いイラスト
で理解できます。

ISBN: 978-4-7773-6123-6 ¥2,499 (税込)

マクミラン
句動詞活用英英辞典最新コーパス分析による
情報発信型の句動詞辞典

現在使われてい
る句動詞を豊富
な用例とイラスト
と共に記載。句
動詞をマスターし
て英語らしい英
語を身につけた
い方は是非必携!

ISBN: 978-4-7773-6124-3 ¥2,499 (税込)



マクミラン ランゲージハウス

www.mlh.co.jp

〒162-0843 東京都新宿区西谷町2-37 千代田ビル4F Tel. 03-5227-3538 Fax. 03-5227-3539 Email elt@mlh.co.jp